

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	グラン・シード北野ルーム		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スポーツ療育(サッカー等)を通じた集団への関わり方や自主性の尊重、音楽療育(リトミック等)を通じた精神的安定など、5領域の視点から児童の強み(ストレンクス)を引き出す多彩なアプローチを実践している。	プログラムを実施する際、活動の目的を明確化し、参加する全職員が計画書の内容を理解・分担したうえでスムーズに運営し、事後の振り返りを次回の活動に繋げている	保護者アンケートで寄せられた「どのような特性に対しどのような活動をするのが訓練になっているのか知りたい」というニーズに応え、活動の目的や意図をより分かりやすく提示・説明できる仕組みを工夫する。
2	SNS等を活用して活動概要や日々の様子を迅速に発信しており、保護者から「すぐ発信されるので分かりやすい」「すぐに対応してくれる」と情報の透明性や対応スピードが高く評価されている。	児童が自分で1日の流れや物の置き場所を把握して主体的に動けるよう、絵カードやイラストを用いた「見える化」を行い、見通しが持てない不安を軽減させている。	保育園や幼稚園との連携を今後も継続し、施設外での様子も踏まえた一人ひとりに寄り添うシームレスな支援を追求していく。
3	早期利用中止となる児童がおらず、「また来たい」と思える安心・安全な居場所を提供できており、安定した通所につながっている。	集団参加に困難を抱える児童に対しては、無理に促すのではなく、まずは個別の思いを受け止め、「安心できる楽しい場所」と認識してもらうことを最優先に個別対応を行っている。	様々な年齢や特性・心理状況の児童に対して、より余裕をもって寄り添い信頼関係を築けるよう努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の送迎時や面談時の助言が「ペアレントトレーニング(家族支援)」として保護者に十分に認識されておらず、保護者評価における家族支援プログラムの満足度が低くなっている。	保護者の多くが就労や育児等で多忙な生活背景があり、定型的な会場開催の研修等への参加が物理的に難しい状況にある。	保護者のライフスタイルに合わせ、時間や場所を問わず視聴できる「動画配信」の活用や、ペアレントトレーニングの意義を伝え理解してもらえようお便りの作成するなど、多様な方法で家族支援の充実を図る。
2	保護者が「先生方が忙しそう」と気を遣ってしまい、困りごとを伝えそびれてしまうなど、気軽に相談しやすい雰囲気づくりに課題がある。	職員が日々の業務に追われているため、保護者とのコミュニケーションの時間が十分に取れず、また、策定済みである「事故防止・緊急時対応・防犯マニュアル」等の重要事項の周知が未確認となってしまうケースが生じている。	保護者が遠慮せずに相談できる環境の整備を徹底するとともに、未確認の声があった各種マニュアル(事故防止・緊急時対応・防犯等)について、保護者へ改めて確実な周知・説明を実施する。
3	日々の療育対応や準備に時間を要し、職員不足により地域関係機関との人的交流や連携に十分な時間を割けていない。	言語聴覚士や理学療法士などの専門的知識を持つ職員の採用活動を継続しているものの、容易には人材確保に至っていない。	現在の職員がよりの確かなアドバイスを打てるよう研修参加を進めて専門性を高めると同時に、引き続き専門職員(言語聴覚士・理学療法士等)の求人・確保に向けて取り組む。